

けいじばん

○ホームページのご案内；千年の森ホームページは伊藤幹事のご尽力で更新・増設工事が着々進み、植物や野鳥の観察記録なども充実中です。特に今月オンした高橋会員の「豊英島トビ観察記」は地の利に恵まれ、近距離から巢のヒナの成長の様子を観察した貴重な観察記と画像です。是非ご覧下さい。今後メニューや画面も改善し一層の充実を図ります。ご意見をお寄せ下さい。

○次回活動日のご案内；10月23日日曜日、9時40分森林館駐車場集合、主な活動メニュー—きのこ収穫祭、伐採計画（選木）、伐採実習&伐採安全対策など。

・自宅にパソコンの無い会員へ；最寄りの公民館や図書館のパソコンで簡単に閲覧できますので是非ともご利用下さい。手順 ①インターネット画面に「ちば千年の森」と入力し「検索」をクリックする。②先頭行に出てくる「千年の森 top」をクリックすると当会のホームページ画面になり閲覧可能です。（上記のホームページアドレスを入力するよりもミスが少なく容易です）

かつどうのきらく

9月11日（日曜日）晴 参加会員10名、吉原先生

○きのこ観察&森の整備；全員で巨木林・景観管理林を巡回し、きのこ観察と竹刈りや台風14号で折れた枝・木の処理など森の整備。ベニイグチ、ニガイグチモドキ、アメリカウラベニイロガワリなど沢山のきのこが見られたが、昨年9月12日とはすっかり異なり、タマゴタケ、アカヤマドリタケなどはごく少なかった。遅い夏・秋の遅れのせいかどうか1週間後の9月18日再調査の結果、タマゴタケはやはり小粒で少ない。

○コナラ更新林調査；2年前の秋伐採後のコナラ更新林の萌芽調査と実生発芽生育調査。

○植物調査；吉原先生の指導でスタジイ林エリヤの植物調査。まず前回発見したサルナシの葉を高枝から採取して葉の裏を観察し、サルナシに相違ナシと確認。（注：近似種のウラジロマタタビは葉の裏面が白く、サルナシは裏面緑で識別。なおウラジロマタタビも豊英島に存在が02年に確認されている）他にミツバアケビの実も数多く確認、モミ・ホオノキ・イヌガヤの実など多くの木の実にきのこも多く秋を感じた。



タマゴタケ



萌芽調査



(ミツバアケビの実)



(サンカクズルの実)



(モミの実)

またジャコウアゲハの幼虫も発見。植物調査班は生徒僅か3名、吉原先生から木々のはなしのほか、豊英島の歴史、島に残る古井戸の遺構から近隣村落の話まで興味深い話を拝聴し、楽しい観察会でした。

○ほこら山のカシ除伐；巨木林内の通称「ほこら山」頂上のほこら付近にある数本のネズ（要保護植物、千葉県ランクC）が周囲の高木との樹冠競争に被圧され枯れそうなので、ネズ保護のため樹高約15メートル、胸高直径約30センチのカシ3本を伐採する作業。足場は30度の急斜面、カシの重心はネズとほこら側にあり、保護すべきものを傷つける方向に倒れる危険性がある、伐採するカシの周囲は樹木に覆われ、かかり木を避けて倒せる隙間は極く狭い、このような悪条件のなかで作業を開始した。「千年の森」オリジナルの「8の字伐採法（2方向からロープで引っ張り、引っ張り強さの強弱で倒木方向調節）で最初の1本は見事に（幸運に？）狭い隙間に倒れ、無事終了。小休止後2本目に挑戦したが、不幸にしてかかり木となってしまった。ロープや牽引具で外すことを試みたが外れず、ロープで坂下から牽引して高木からは外したものの、小径の灌木にかかり木となった。このかかり木処理中に、傷害事故が発生し、作業中断のやむなきに至った。事故の状況と反省を次頁に記載する。

今回の事故を深刻に受け止め、原因の徹底的究明と再発防止策の定着に最善を尽くします。

9月11日事故発生の状況と反省

事故は午後2時ごろ、通称祠山（ほこらやま）の斜面で起きました。チェーンソーで伐採した2本目のカシがかかり木になり、ロープで牽引して倒したものの灌木にのしかかっています。その状態で下部から順次玉切りをしたところ軽くなった先端部分が灌木に乗って空中に浮いたようになりました。一部はロープで地上に引き落としましたが、残りは灌木を伐採して地上に落とすこととし、Aさんが手鋸で様子を見ながら伐採をしました。ほとんど切れたところで灌木は上部に乗ったカシの先端部分ごと地面に倒れましたが、完全に切れていませんでした。そこで、Bさんが代わりに鉋で切断を行い、交代したAさんは1メートルほど離れました。ところが灌木は上部を押さえられて弓なりになっていたため、切断した瞬間に根元が跳ねてAさんの顔に約4センチの裂傷を負わせました。目や鼻の打撲・傷害や重傷に至らなかったのは不幸中の幸いでした。応急処置；救急研修の手順に従いタオルで圧迫し止血、安全な場所（広場）に移動、水による洗滌・消毒、出血が止ったことを確認のうえ、大型カットバンで傷口を保護。会員の車で本人自宅付近の病院まで送り治療を受けました。4針を縫合する怪我でした。

反省点は、数多くあります。安全管理者・班長・合図係の分担が充分機能せず、かかり木処理の危険性認識が甘かったこと、跳ねる程度の予想が甘く安全な位置や距離を確保しなかったこと、ロープによる引き落としを途中で止めてしまったこと、周囲が安全確保の認識が不十分のままあれこれ作業指示をしたこと、さらにはかかり木を玉切りすぎて宙に浮かせてしまったことなど、さまざまな要因がからみ当会の「伐採作業安全マニュアル」が遵守されなかったことに原因があります。どれか一つでもしっかり対応していればと後から悔やまれる事ばかりです。

当会では独自の安全マニュアルをつくり、安全な伐採作業のための人員配置・役割分担やロープを使った8の字伐採法の導入など、細心の注意を払ってきました。それでも事故は起きました。改めて初心に戻り、「安全は全てに優先する」原則の徹底を図っていきたいと思います。

怪我をされた会員には改めてお見舞いを申し上げるとともに、冷静な応急措置など会員の皆様のご協力に感謝いたします。

千年の森をつくる会に入会して

木更津市 山脇末隆

私の木更津に来る前の職業は外国航路の船員で長年、航海中は来る日も来る日も海と空ばかり見て過ごしておりました。君津の会社で働くようになって、家族づれでドライブに行き初めて豊英湖にめぐり合ったのは昭和47年の夏で、海ばかり見ていた私にとっては森と湖の素晴らしさに感動し、そのことが心底に残っておりました。

一方では巨樹に関心を持ち、樹齢700年から1000年の巨木、古木の重厚さ、風雨に耐えて自然に出来たでこぼこの木肌、千年にもわたって生きてきた生命力等に魅せられて写真の撮影をしまわっております。

真鍋さんから中学時代の同窓会のおかげで、千年の森をつくる会を紹介され、会の名前からして千年の大樹になるまで活動を展開されるのだろうと興味津々で、今年4月に入会させていただきました。

森や木や植物のことなど無知の私がこの会に入会して、皆さんたちの会話を聞きいろいろ勉強になり楽しく、さらに森にも気分を癒されて活動に参加しております。

この会の素晴らしいこととして下記の主な6点、について感服致しました。

- 1) 会長をはじめメンバーの一人一人が強い個性、と特技を持っている人が多いこと。
- 2) 豊英島の将来のマスタープランがきっちりつくられ、かつ、書面で残されていること。
- 3) 会長を中心として組織的に活動が展開されていること。
- 4) 安全にも十分な配慮がなされていること。
- 5) 作業のみに重点をおかず楽しみを感じる活動であること。
- 6) 記録を重視されていること。

私はこの素晴らしい活動が続けばシンボリックの将来は千年の大樹になっているに違いない、その時の巨木を想像しつつ、現在の木の写真を撮っております。

豊英ダムは君津の工業用水のためのダムとして作られたもので私が勤めていた会社にとっては重要な水源であり、その水が涸れないように森の手入れをしてもらっているのがこの活動の目的の一つであり、私が勤めていた会社の人たちに紹介するべく、会社のOB会報に寄稿することになっており、できるだけ多くの人に知ってもらいたいと思っています。名実ともに千年（1000年）の森をつくる会として、後継者の継続までも含めて今後とも発展的活動になることを願っております。

